

令和 8 年度 第 1 回
士 別 市 振 興 審 議 会
議 案

日時：令和 8 年 9 月 2 9 日(火) 午後 2 時00分～

会場：士別市役所 3 階 議場

会議資料一覧

- 〈資料 1〉 羊のまち士別 まちなか賑わい創出事業の進捗状況
- 〈資料 2〉 2 期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証
- 〈資料 3〉 羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング応援金事業
- 〈資料 4〉 企業版ふるさと納税寄附実績
- 〈資料 5〉 士別市振興審議会条例

会 議 次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 委員の紹介

4 市長挨拶

5 議 事

(1) 会長・副会長の選任について

【議 案】

(1) 地域未来交付金活用

羊のまち士別 まちなか賑わい創出事業の進捗状況について

【報 告】

(1) 第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

(2) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用

羊のまち士別「サフォークラム」ブランディング応援金事業の検証について

(3) 企業版ふるさと納税の寄附実績について

6 そ の 他

7 閉 会

羊のまち士別 まちなか賑わい創出事業

【事業概要】

人口減少が構造的な課題となり地域経済の縮小が進む中、道の駅（羊のまち 侍・しべつ）を核として、地場産業の魅力発信と販路拡大を図る取組が求められている。

本事業では、季節やテーマに応じた小規模イベントを年間を通じてリレー形式で開催する「賑わいJUNKANリレー」を展開し、地元事業者の継続的な出店・販売機会を創出する。

あわせて、屋外出店環境の整備やファミリー層向けコンテンツの導入、「お試し出店」等を通じて新規出店者や小規模事業者の参入を促進し売上向上につなげる。これらの取組を戦略的な情報発信と連動させ、交流人口の拡大を地域内消費へと結び付け、自立的に継続可能な賑わいと地域経済の好循環を目指す。

【KPI】

【基準年(R6)】

① 観光入込客数

520,200人

② 道の駅活用件数

0件

③ 道の駅出店者売上

0円

「持続的にいつでも・だれもが参加しやすい仕組み」として、賑わいJUNKANリレーを構築

JUNKANリレーのイメージ



核となる「道の駅イベント」と間をつなぐ自主的な催しを一体的にPRすることで年間を通して推進。

【多様な主体の参加（例）】

- J A 個人 企業
- 行政 まちづくり会社
- 観光関係団体 めん羊振興団体
- 農業関係団体 市内高校生
- 商店街振興団体
- 商工会議所・商工会

【さまざまな催し（例）】

- 旬の農産物販売
- 加工品販売
- 商店街連携催事
- 趣味を生かした交流
- 人の交流 など

羊のまち士別 まちなか賑わい創出事業

【具体的な取り組み①】

情報発信の強化による認知度向上

新規パンフレット作成、広告・PRグッズ、動画製作、動画プロモーション、多様なメディア活用

【具体的な取り組み②】

賑わい拠点機能の整備

出店環境の整備、羊にちなんだエアー遊具、PRキャラクター関連遊具

【具体的な取り組み③】

「お試し事業」の展開

出店者応援クーポン、お試しイベント、お試し誘客ツアー、空き店舗への誘導、新たな出店者の発掘

【具体的な取り組み④】

自立運営の仕組みを構築

出店者マニュアル作成、出店受付・情報発信体制整備、施設使用料徴収基準の整備、事業運営体制の構築

地域未来交付金の活用予定(R8～R10)

令和8年度 19,390千円

令和9年度 16,940千円

令和10年度 8,820千円

1. 情報発信力強化と認知度向上



2. 賑わい拠点の魅力強化



3. お試し事業の展開



4. 自立運営体制の構築



【具体的な取り組み①】
情報発信の強化による認知度向上

【具体的な取り組み②】
賑わい拠点機能の整備

【具体的な取り組み③】
「お試し事業」の展開

【具体的な取り組み④】
自立運営の仕組みを構築



令和8年7月29日 道北日報

士別市が本年度から始めた「羊のまち士別 賑わいJUNKANリレー」は、単なるイベント事業ではない。道の駅「羊のまち」を舞台に、市民・事業者が主体となって物販や飲食、展示、体験などを展開し、その活動を通じて地域経済や交流を活性化させようという取り組みである。

事業開始からまだ2カ月にも満たないが、すでに10事業者が出店し、週末には道の駅に新たな流れが生まれている。数字だけをれば決して大規模とはいえない。しかし、事業の評論は出店数だけ判断すべきではない。地方都市では「賑わいつくり」という言葉が頻りに使われる。人口減少や高齢化が進むなか、多くの自治体がイベントを開催し、人を集めようと努力している。

しかし、一日だけ大勢の人が集まっても、その熱気が翌日には消えてしまえば、本当の意味で地域は元気になることはできない。大切なのは、持続的に人が訪れる仕組みをつくることだ。

催しを一度開催して終わるのではなく、次々と市民や事業者へ活動のバトンをつなぎ、賑わいが循環していく。それが「JUNKANリレー」とする所以だ。道の駅は、もともと観光客が立ち寄る施設というイメージが強いが、士別市の場合には「まちなか交流フラッグ」として、地域住民が集い、交流し、新たな活動を生み出す「地域の広場」の役割が期待されている。

士別市の道の駅も開業以来、多くの来場者を迎えてきたが、施設そのものの魅力だけでは賑わいには限界があり、最終的には人を呼ぶのは施設ではなく、人の活動ではないか。

「JUNKANリレー」は、減免制度によって参加へのハードルも下げ、「出店してみたい」「イベントを開いてみたい」と考えている人にとっては、大きな後押しになっているはず。こうした「挑戦しやすい環境」を整えることは、地域づくりに極めて重要なこと。

地域を活性化するのは行政だけではできない。行政はあくまで舞台を整え、市民が自由に活躍できる環境をつくるのが役割である。一人の挑戦が新たな参加者を呼び込み、その活動がさらに別の挑戦へつながる。そうした好循環を生んでいくことが「JUNKANリレー」の大きな目的だ。

賑わいは誰かが与えてくれるものではない。市民一人ひとりが少しずつ関わって初めて生まれる。そして、その輪が途切れることなく巡り続けるとき、「羊のまち士別」の新たな魅力は、さらに大きく育っていくのではないだろうか。(功)

KPI①：観光入込客数
【令和8年度目標】
対前年 1,500人増
【令和8年8月31日現在】
集計中

KPI②：道の駅活用件数
【令和8年度目標】
対前年 40件増
【令和8年8月31日現在】
44件

KPI③：道の駅出店者売上額
【令和8年度目標】
対前年 800,000円増
【令和8年8月31日現在】
2,110,320円

【KPIの集計について】
※①観光入込客数は、士別市全体の数値を活用するため、現在は集計中です。
※②活用件数は、電子フォームによる申込件数を掲載していますが、電話等で申込をしている出店者も存在します。
※③活用者売上額は、電子フォームによる報告金額を記載しています。小規模催事や個人出店の平均売上額は48,384円となっています。



第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略

数値目標・重点プロジェクト検証

(令和2～7年度実績)

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略重点プロジェクト数値目標(令和7年度実績)

■まちの未来創造

担当課	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
総合政策課	合計特殊出生率	1.36 全国平均1.42	1.35 (H30～R4) 全国平均1.26 (R4)					-		1.5 全国平均以上
商工労働観光課	交流人口	334,312人	290,000人	616,078人	586,009人	560,428人	520,497人	515,454人		460,000人/年

■農業未来都市創造

	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
農業振興課	農家戸数	585戸	553戸	537戸	492戸	470戸	442戸	434戸		450戸
畜産林務課	成雌めん羊飼養頭数	614頭	655頭	649頭	641頭	678頭	695頭	700頭		1,000頭

■合宿の聖地創造

	数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 R8年度
スポーツ推進課	合宿者数	延24,223人	延11,462人	延14,314人	延16,271人	延21,177人	延18,827人	延19,867人		延24,900人
スポーツ推進課	招致チーム数	延487チーム	延217チーム	延270チーム	延380チーム	延415チーム	延351チーム	延351チーム		延500チーム

第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重点プロジェクト評価シート

No.1	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
住民による地区別計画推進の取り組み件数 基準値(2018年度):3件/年 目標値(2026年度):延24件		3	3	3	3	4	4	4
		4	1	4	4	4	5	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		「まちの地域力」推進事業						
【事業概要】								
士別市「まちの地域力」推進事業支援要綱に基づき、まちづくり総合計画地区別計画等に位置づけた取り組みや協働による公益的なまちづくり活動の取り組みを支援し、地域力の向上を図る。								
【実施状況】								
・一次募集 令和7年4月審査会 申請1件、採択1件 ・随時募集 令和7年6月審査会 申請1件、採択1件 令和7年7月審査会(書面会議) 申請1件、採択1件 令和7年8月審査会 申請1件、採択1件 令和7年9月審査会(書面会議) 申請1件、採択1件 新規事業が1件、継続事業が4件実施された。 取り組みについて、事例等を市広報紙・ホームページ等で発信し、地域内外への情報共有を図った。								
【主な取り組み】								
・しべつまちゼミ 3年目 ・羊毛出張講習inサフオーランド士別 1年目 ・まちなかにぎわい広場推進事業 3年目 ・羊のまち士別トレランフェス 2年目 ・尚記杯争奪北海道4年生交流野球大会 3年目								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☒ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
終了(戦略プロジェクトに位置付けず)								
理 由	数値目標を設けず、戦略プロジェクトには位置付けないが、各地域が主体となって取り組む地域づくりを支援し、地域の特色を活かしたまちづくりの推進や、市民団体等による創意工夫された活動を支援し、地域力の向上を図るため、本事業を改め、新たに『「共創のまちづくり」推進事業』として実施する。 総合計画内では、基本目標「地域の魅力でにぎわうまちづくり」における施策23「市民活動・地域づくりへの支援」を推進する取り組みの一つとして計画している。							

No.2	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	コンパクトタウンの推進と交通ネットワークの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
市内路線バスの日利用者数		1,180	1,180	1,185	1,190	1,195	1,200	1,200
基準値(2018年度):1,180人/日								
目標値(2026年度):1,200人/日		550	581	568	629	542	376	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域公共交通総合対策事業						
【事業概要】								
土別市地域公共交通活性化協議会の研究組織として、有識者や連携企業等で構成する「土別市次世代モビリティ推進会議」を設置。「土別市次世代モビリティビジョン」に基づき、変化する市民ニーズに対応した移動手段の確保と持続可能な運行体制の構築に向け、関係者間の連携強化やデジタル化の推進、利用環境の改善等の取り組みを支援する。								
【実施状況】								
バス事業者と連携し、買い物支援を通じた公共交通の利用促進効果を検証するため、冬季(12月～3月)に市内循環線「わくわく買い物線」を運行した。 また、タクシー事業者とは、共働き世帯の習い事送迎にかかる負担軽減と住民ニーズの把握を目的とした「習い事応援タクシー」の実証実験を継続。利用料金や実施手法、事業効果の検証を行った結果、令和8年度から市の事業として本格運行を開始することとなった。								
【主な取り組み】								
・「わくわく買い物線」の運行 ・「習い事応援タクシー」の実証実験(事業化へ)								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
終了(戦略プロジェクトに位置付けず)								
理 由	人口減少と少子高齢化の進行により、市民の移動が自家用車に依存している現状では、単に公共交通の利用者増を目指す従来の取り組みには限界が生じている。そのため、持続可能な地域公共交通の再構築を優先し、特定の数値目標(KPI)を掲げる「戦略プロジェクト」としての位置付けは見直すこととした。今後は、公共交通施策の指針である「土別市地域公共交通計画」に基づき、バス路線の再編や多様な交通モードの導入、情報発信の強化など、市民生活に不可欠な移動手段を確保するための取り組みを継続していく。							

No.3	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
まちなか交流プラザ来館者数 基準値(2018年度):- 目標値(2026年度):延 720,000人		-	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
		-	387,099	294,586	273,660	266,578	266,352	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
【事業概要】								
令和3年5月1日にオープンした「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」を観光の情報発信拠点とし、まちづくり士別株式会社や関係機関と連携し、中心市街地の賑わい創出を図る。								
【実施状況】								
北海道で129番目の登録認定を受けた道の駅において、まちづくり士別株式会社との情報共有や意見交換を行いながら、中心市街地の活性化に向けた各種取り組みを実施した。 ※令和6年7月28日、来館者100万人を達成。								
【主な取り組み】								
・サフォークスタンプ協同組合との連携(349ポイントラリー感謝祭) ・士別市中心商店街振興組合との連携(絵コンテスト、お買い物ラリー) ・羊肉や地元野菜などが楽しめる季節ごとのイベント開催(春、夏、秋)								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」を観光拠点として様々な媒体を活用した情報発信を強化し、市街地の回遊性と滞在時間の向上を図るため、同KPIを第2次士別市まちづくり総合計画に位置づけする。 ※令和8年度から道の駅を拠点とし、多様な出店者による自主的、主体的な参加を募り、販売や賑わい創出の交流イベント等をリレー形式でつなぐ「賑わいJUNKANリレー」の取り組みを実施							

No.4	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	まちなか拠点の整備による賑わい創出 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
宿泊者数		81,000	81,000	82,000	82,000	82,000	83,000	83,000
基準値(2018年度):80,554人/年 目標値(2026年度):延 574,000人		56,000	59,450	74,840	99,884	69,478	89,020	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中心市街地活性化事業						
【事業概要】								
本市に訪れる観光客への情報発信や、市民及び合宿者への快適な環境整備の実施。								
【実施状況】								
「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」のデジタルサイネージを活用した宿泊施設の紹介や、令和6年度に実施した、士別市スポーツ合宿センター「士別inn翠月」の浴室改修を経て、通年での営業となった。								
【主な取り組み】								
・「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」における情報発信の強化と一元化 ・士別市スポーツ合宿センター「士別inn翠月」屋上防水工事								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	士別市スポーツ合宿センター「士別inn翠月」の宿泊者数を、第2次士別市まちづくり総合計画「施策21合宿の充実」に項目を変更し、当施設の整備、充実を図りながら、市民及び合宿者の快適な環境の提供に取り組む。							

No.5	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
ナビデスク相談件数		-	20	25	30	35	40	50
基準値(2018年度):- 目標値(2026年度):延 200件		-	67	63	76	69	88	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		移住定住促進事業						
【事業概要】								
人口減少や少子高齢化が進行する中、本市への移住・定住を促進するとともに、地域との継続的なつながりを持つ関係人口の創出・拡大を図るため、移住相談や情報発信、移住体験事業、交流イベントの開催、住まいや仕事に関する各種支援を総合的に実施する。また、士別市移住定住交流促進協議会「Mazaru」や「移住ナビデスク」の運用により、移住希望者と地域住民との交流機会の創出や受入体制の充実を図ることで、移住後の地域定着を促進し、地域活力の維持・向上につなげる。								
【実施状況】								
士別市移住定住交流促進協議会Mazaru及び移住ナビデスクにおいて移住相談対応を行うとともに、Mazaruを中心に情報発信や交流イベント等を実施し、移住・定住の促進及び関係人口の創出・拡大に取り組んだ。								
【主な取り組み】								
・ナビデスク相談 ・空き家・空き地バンク運営 ・関係人口の創出・拡大に向けたイベントの実施(移住体験ツアー 等) ・移住・定住に関する情報発信(ホームページ、SNS等) ・ふるさとワーキングホリデーの実施 ・士別市奨学金返還支援補助金の交付 ・移住支援金の交付								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	人口減少や少子高齢化の進行により、地域活力の低下や担い手不足が懸念されていることから、旧総合戦略において設定したKPIを第2次士別市まちづくり総合計画に位置付けし、移住・定住の促進及び関係人口の創出・拡大を通じて、地域の活力維持・向上を図る。							

No.6	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	移住・定住パッケージの構築 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
地域おこし協力隊の定住者数 基準値(2018年度):1人/年 目標値(2026年度):延 7人		1	1	1	1	1	1	1
		2	1	3	1	2	1	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		地域おこし協力隊活動事業						
【事業概要】								
地域力の維持や強化を図るため、地域おこし協力隊制度を活用し、地域外から新たな担い手や地域活性化策などを助言する意欲ある都市住民を受け入れ、定住定着にむけた取り組みを進める。								
【実施状況】								
地域おこし協力隊員は、年度当初の任用が5名。任期満了及び満了前の早期退任を含む2名が退任となり、うち1名が定住となった。毎月の活動レポートによる活動内容や進捗状況を確認。また、退任後の定住サポート体制の構築、隊員間の連携強化を図った。								
【主な取り組み】								
・協力隊員へのサポート ・市ホームページやマッチングイベントによる募集活動 ・起業、就業にむけた定期面談の実施 ・起業支援金の活用 ・協力隊ネットワークの推進 ・広域連携による交流、活動の強化 ・活動報告会の開催や地域イベントへの出展による市民交流、PR								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	地域おこし協力隊はまちの活性化、担い手不足の解消など基幹産業の維持に大きく貢献している。引き続き戦略プロジェクトに掲げて本制度の積極的な活用による地域力維持を図る。							

No.7	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
広域観光造成ツアー商品数		4	4	5	5	5	6	6
基準値(2018年度):4商品/年		0	0	2	0	0	0	
目標値(2026年度):6商品/年								
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】								
士別地域(士別市、和寒町、剣淵町、幌加内町)の観光資源を生かした広域観光ルートを形成し、多くの観光客が再度、この地域に来たいと思える新たな観光コンテンツの造成を進める。								
【実施状況】								
「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」のデジタルサイネージを活用した宿泊施設の紹介や、令和6年度に実施した、士別市スポーツ合宿センター「士別inn翠月」の浴室改修を経て、通年での営業となった。								
・「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」における情報発信の強化と一元化								
・「士別・和寒・剣淵・幌加内食と観光周遊スタンプラリー」								
・JAFと連携した「士別・和寒・剣淵・幌加内ぐるっとドライブスタンプラリー」								
・旭川観光誘致宣伝協議会との連携(インバウンド商談会、WEBによるPR)								
・「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」を中心とした情報発信の強化								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
終了(戦略プロジェクトに位置付けず)								
理 由	「広域観光造成ツアー商品数」は、戦略プロジェクトに位置づけていないが、第2次士別市まちづくり総合計画「施策16観光の振興」において、広域連携の強化を掲げており、引き続き、地域資源の魅力発信や国内外に向けた観光プロモーションにより誘客促進を図る。							

No.8	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
観光入込客数		336,000	456,000	457,500	457,500	457,500	460,000	460,000
基準値(2018年度):335,400人/年		290,000	616,078	586,009	560,428	520,497	515,454	
目標値(2026年度):延 3,084,500人								
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】								
既存の観光コンテンツの活用に加え、1市3町の広域連携により、効率的かつ効果的な観光プロモーションや周遊促進事業を実施し、観光入込客数の増加及び地域の魅力発信の強化を図る。								
【実施状況】								
「1市3町着地型観光推進協議会」による食と観光周遊スタンプラリー（紙媒体）及びJAFシステムと連携したデジタルスタンプラリーを、士別市・和寒町・剣淵町・幌加内町で連携して実施し、広域周遊による誘客促進を図った。また、道の駅「羊のまち侍しべつ」を拠点とした情報発信により、来訪者の周遊促進につなげた。								
【主な取り組み】								
・広域連携した着地型観光 ・情報発信の強化								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続（戦略プロジェクトに位置付け）								
理 由	「観光入込客数」を、第2次士別市まちづくり総合計画「施策16観光の振興」のKGIに定め、観光による交流と消費の機会を確保し、にぎわい創出と地域経済の活性化を促進を目指す。							

No.9	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	広域連携による着地型観光の深化						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
インターンシップ受け入れ者数		3	4	4	4	4	4	4
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 27人		0	0	0	0	0	0	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】								
外国人観光客の増加に伴う受け入れ側のインバウンド対応能力の向上に繋げ、交流人口の拡大を図る。また、受け入れに必要なコミュニケーション能力・語学力の向上をめざす。 インターン生による各職場での体験をSNS等で情報発信するなど、地域における観光の魅力を広める取り組みを進める。								
「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」のデジタルサイネージを活用した宿泊施設の紹介や、令和6年度に実施した、土								
インターンシップの受入については、令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により未実施となった。令和5年度は国立高雄科技大学(台湾)から受入希望があったものの、日程や本市の財源等の条件が合わず実施には至らなかった。このため、令和5年度以降は単独での海外へのプロモーションは実施せず、「あさひかわ観光誘致宣伝協議会」による台湾・韓国等東アジア圏でのセールスプロモーションの機会を活用し、本市の観光情報の発信を行った。								
【主な取り組み】								
・「あさひかわ観光誘致宣伝協議会」による台湾・韓国等東アジア圏でのセールスプロモーション。 ・土別観光協会と「土別市観光振興基本計画(R8～)」の策定に合わせて、インバウンド観光について意見交換								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
終了(戦略プロジェクトに位置付けず)								
理 由	インバウンド観光については、受入体制やオーバーツーリズム等の課題を踏まえ、単独での海外プロモーションは行わず、「あさひかわ観光誘致宣伝協議会」など広域連携組織による取組を中心に実施する。							

No.10	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
羊と雲の丘来場者数 基準値(2018年度):50,547人/年 目標値(2026年度):延 360,500人		51,000	51,000	51,500	51,500	51,500	52,000	52,000
		31,000	27,370	30,041	33,171	33,613	29,803	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】								
本市の特産品や地元食材を活用したメニューの提供のほか、観光パンフレットやホームページ、SNS等の媒体を活用した効果的な周知を進める。								
【実施状況】								
これまで同様、売店販売やレストラン、バーベキューハウスにおいて羊のまち士別「サフォークラム」のPRや道の駅と連動した販売を行った。								
【主な取り組み】								
・情報発信の強化 ・観光誘致PR ・GW期間中の「シーブドックショー」、「羊の毛刈りショー」、「めえめえかふえ」、「乗馬体験」など								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	観光による交流と消費の機会を確保し、にぎわいの創出と地域経済の活性化を推進するため、同KPIを第2次士別市まちづくり総合計画に位置づけする。							

No.11	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	経済部商工労働観光課						
	基 本 施 策	”羊のまち士別”ブランドの確立						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
士別サフォークラム取り扱い飲食店数 基準値(2018年度):4店舗/年 目標値(2026年度):6店舗/年		4	4	5	5	5	6	6
		5	6	6	6	6	7	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		観光誘致宣伝活動推進事業						
【事業概要】								
市内飲食店などでサフォークラム等の利用拡大を図り、SNS等を活用したPRを通じて、地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」を発信し、本市への集客を図る取り組みを進める。								
【実施状況】								
道の駅にて、まちづくり士別㈱で実施する各種イベントで「士別サフォークラム」のラム串の定期的な販売などを実施し、「士別サフォークラム」をPRを実施できた。食してもらう、知ってもらう機会を設け誘客に努めた。 【士別サフォークラム取り扱い飲食店】7店舗 羊飼いの家、「道の駅(羊のまち 侍・しべつ)」、レストラン武士、ペコラキッチン、翠月、いろは肉店、斉藤商店								
【主な取り組み】								
情報発信の強化 まちづくり士別による各種イベントの実施								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
終了(戦略プロジェクトに位置付けず)								
理 由	「士別サフォークラム取り扱い飲食店数」は、地域ブランド羊肉「士別サフォークラム」の利用拡大を図った結果、目標とするKPIを達成し、本取り組みを完了とした。							

No.12	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	Society5.0の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新たな技術開発の試験研究件数		-	1	-	1	-	1	-
基準値(2018年度):延 2件		-	1	1	1	2	1	
目標値(2026年度):延 3件								
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業						
【事業概要】								
本市に見合ったSociety5.0の構築に向けた調査研究を進めるとともに、MaaSの導入や自動運転の実証実験を中心に、本市が有する自然環境を生かした新たな技術開発の試験研究誘致に努める。								
【実施状況】								
見識のある企業との意見交換や「北海道自動車安全技術検討会議(事務局:北海道)」の参画等によって、WEBによるリモート会議を中心に、MaaSの導入や自動運転の実証実験に関する調査・研究を進めた。								
【主な取り組み】								
・「自動運転試験」の誘致に向けた情報収集及び情報発信、北海道との連携、見識のある企業との意見交換 ・国内企業による自動運転関連技術の試験を実施(1件)								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	冷涼な気候や自然災害の少なさなど本市の特色を活かした企業誘致活動の契機となることから、戦略プロジェクト未らいの士別共創による「企業誘致の強化促進」に位置づけ、引き続き推進していく。							

No.13	重点プロジェクト名	まちの未来創造						
	担 当 部 署	総務部総合政策課						
	基 本 施 策	遊休財産の活用も含めた企業誘致等によるまちの活性化						上段:目標値 下段:実績
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
企業等との連携件数		1	-	1	-	1	-	1
基準値(2018年度):1件/年								
目標値(2026年度):延 4件		0	2	2	4	2	4	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		企業誘致推進事業、立地企業連携事業						
【事業概要】								
特定遊休財産を中心に、利活用の見込みがない公共施設を活用した企業誘致を進めるほか、駅南工業団地の分譲に向け、積極的な周知等に努める。また、企業連携としては、立地企業との市民交流に引き続き取り組む。								
【実施状況】								
企業誘致に向けた北海道との連携や見識のある企業との意見交換を実施したほか、駅南工業団地の分譲に関する北海道への情報提供を行った。 特定遊休財産の活用提案や工業団地分譲に向けて募集を行った。								
【主な取り組み】								
・ダイハツ工業との共催による健康安全運転講座の開催(9月) ・ブリヂストン北海道PGでの市民見学会開催(1月) ・三協精器工業北海道工場での市民見学会開催(3月) ・北海道の官民連携推進局と連携した本市と企業とのマッチング会の開催(11月) ・主要立地企業の広報特集記事発行(4回)								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	雇用創出に伴う経済の地域内循環など市内経済の発展に必要な取り組みであることから、戦略プロジェクト未らの士別共創による「企業誘致の強化促進」に位置づけ、引き続き推進していく。							

No.14	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
排水性向上対策(暗渠施工延長) 基準値(2018年度):62,519m/年 目標値(2026年度):延385,000m		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
		64,740	43,561	35,236	33,251	39,495	53,302	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		「まちの地域力」推進事業						
【事業概要】								
排水性の向上により、適期作業を可能とし、農作物品質の向上・生産量の増加及び営農機械の走行性の改善による農作業の効率化を図ることで、農業所得の安定化等により持続可能な生産体制の確立を図る。								
【実施状況】								
小規模な暗渠排水を実施し、排水性の向上を図った。								
【主な取り組み】								
暗渠施工延長 53,302m								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☒ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	安定的かつ継続的な農業生産を支える基盤づくりに取り組むため、新たなKPIを第2次士別市まちづくり総合計画へ位置づけた。							

No.15	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	持続可能な生産基盤の確立 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
土づくり対策(堆肥・緑肥施用面積)		2,200	2,200	2,200	2,300	2,300	2,400	2,400
基準値(2018年度):2,294ha/年 目標値(2026年度):延16,000ha		2,379	2,327	2,098	2,022	2,247	1,976	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		中山間地域等直接支払交付金・産地交付金・環境保全型農業直接支払						
【事業概要】								
農業の原点である土づくりの推進を図る。								
【実施状況】								
堆肥施用や適正な輪作体系の確立を図るため緑肥作物を導入し、農作物の収量・品質向上を図った。								
【主な取り組み】								
堆肥施用面積 1,157.3ha 緑肥作付面積 818.3ha								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☒ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	持続可能な生産基盤の確立(土づくりの推進)に取り組むため、新たなKPIを第2次士別市まちづくり総合計画へ位置づけた。							

No.16	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	担い手の確保・多様で安定的な経営体の育成 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規就農者確保数		5	5	5	5	5	5	5
基準値(2018年度):8人/年 目標値(2026年度):延 35人		6	8	7	10	10	10	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		農業農村担い手支援事業						
【事業概要】								
就農研修者・新規就農者・新規参入者など地域の担い手の確保・育成を図る。								
【実施状況】								
【新規就農者内訳】								
・新規参入者 4人 ・Uターン(学卒者含む) 6人								
【研修者内訳】								
・地域おこし協力隊員(農業支援員) 2人								
【主な取り組み】								
・就農相談会への参加 8回 ・農業大学への訪問 1回 ・募集掲載 市ホームページ(通年) 農業公社(通年) ・士別市担い手支援協議会の開催 3回 ・新規就農者等向け冬期学習会の開催 8回 ・就農研修者等との定期面談(随時)								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	農業者の減少・少子高齢化に伴う地域の担い手不足は益々深刻化しており、基幹産業である農畜産業を守るため、同KPIを第2次士別市まちづくり総合計画に位置づけし、地域力の維持・強化を図る。							

No.17	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
GPSガイダンス活用面積		5,450	5,590	5,730	5,870	6,010	6,150	6,290
基準値(2018年度):5,174ha/年 目標値(2026年度):延 41,090円		5,482	5,809	6,469	7,156	7,196	7,593	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		経営所得安定対策等産地交付金						
【事業概要】								
GPSガイダンス活用により、農作業の省力化、低コスト化を図る。								
【実施状況】								
GPSガイダンスの活用促進のため、経営所得安定対策等産地交付金の取り組みメニューの一つとして設定した。								
【主な取り組み】								
GPSガイダンス活用面積 7,593ha								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	安定的かつ継続的な農業生産を支える基盤づくりに取り組むため、新たなKPIを第2次士別市まちづくり総合計画へ位置づけた。							

No.18	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部農業振興課						
	基 本 施 策	スマート農業の推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
水管理システム台数(給水栓自動制御システム)		20	30	40	40	50	50	50
基準値(2018年度):-								
目標値(2026年度):延 280台		56	2	6	1	3	5	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		多面的機能支払事業						
【事業概要】								
スマートフォンで水田の給水栓管理を実施し、作業の省力化を図る。								
【実施状況】								
・水管理システムが導入され、労働時間等の削減が図られた。 ※水管理の時間 1haあたり ・設置圃場28min ・既存圃場102min (期間 6月～8月)								
【主な取り組み】								
(未達成の要因) ・当初計画は、標準区画3.4haに2台を予定していたが、1台での対応で可能となっている。 ・自動給水栓に枝葉や草刈り後の草などが引っ掛かり、詰まってしまうため、正常に作動しない場合がある。 ・他のICT機械(ドローンなど)の購入するなど、自動給水栓の設置が後回しとなっている。								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	安定的かつ継続的な農業生産を支える基盤づくりに取り組むため、新たなKPIを第2次士別市まちづくり総合計画へ位置づけた。							

No.19	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
飼養技術研修会に参加する生産者数		10	10	10	15	15	15	15
基準値(2018年度):4人/年 目標値(2026年度):延 90人		28	24	36	51	50	48	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
【事業概要】								
めん羊飼育に関する全国・全道の機関・団体や生産者などとの連携、また、農業応援アドバイザーによる飼養技術向上などの助言や労働力の確保などにより生産基盤の充実を図る。								
【実施状況】								
生産者及び法人従業員等が統一的手法・見解による飼養技術取得を図るため、農業応援アドバイザーによる羊飼養現場の巡回指導を実施した。また、畜産技術協会や北海道めん羊協議会等との連携による講習会や研修会を開催し、飼養技術・知識の向上を図った。								
【主な取り組み】								
・羊飼養現場巡回指導(5/19-20、10/9、6施設)：延べ12名 ・めん羊登録審査等講習会(5/21)※畜産技術協会連携：18名 ・めん羊生産飼養技術向上研修会(9/16)※北海道めん羊協議会連携：18名								
KPI 達成状況		☒ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	農業未来都市創造の数値目標「成雌めん羊飼養頭数」を、基本施策『農業の振興』の成果と目標(指標)に設定し、担い手の育成・確保や生産基盤の強化、農村の多面的機能の維持により豊かで魅力ある農業・農村づくりを推進する。							

No.20	重点プロジェクト名	農業未来都市創造						
	担 当 部 署	経済部畜産林務課						
	基 本 施 策	サフォーク羊の供給体制の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
新規めん羊飼養者数(上段)		1	1	1	1	2	2	2
新規飼養戸数(下段)		0	0	0	0	0	0	1
基準値(2018年度):-		1	1	1	2	2	1	
目標値(2026年度):延 10人・1戸		0	0	0	0	0	1	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		めん羊振興事業						
【事業概要】								
サフォーク羊の新規生産者の確保及び既存生産者の規模拡大の取組に対して支援する。 「地域おこし協力隊制度」の活用や各種大学・専門学校生の受入などを推進し、人材の確保・育成を図る。								
【実施状況】								
- 令和7年4月1日、羊飼養の地域おこし協力隊を2名任用した。 - お試し地域おこし協力隊として2名を受入れた。 - 令和7年8月、任期満了後の協力隊1名が、めん羊飼養と耕種農業の複合経営で新規参入した。								
【主な取り組み】								
- 地域おこし協力隊(羊飼養)の募集・任用 - お試し地域おこし協力隊の受入								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	農業未来都市創造の数値目標「成雌めん羊飼養頭数」を、基本施策『農業の振興』の成果と目標(指標)に設定し、担い手の育成・確保や生産基盤の強化、農村の多面的機能の維持により豊かで魅力ある農業・農村づくりを推進する。							

No.21	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	合宿受け入れ態勢と招致活動の充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
リピーターチーム数 基準値(2018年度):149チーム/年 目標値(2026年度):162チーム/年		153	155	157	159	160	161	162
		87	95	106	113	102	110	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツ合宿推進事業						
【事業概要】								
トレーニング施設的环境整備をはじめ、合宿チームのニーズに応えた送迎体制を確保するなど、合宿受け入れ態勢の充実を図る。また、合宿の里士別推進協議会への補助による活動支援を行い、官民一体となった合宿招致活動を進める。								
【実施状況】								
男女実業団の駅伝大会などを訪問し招致活動を実施した。 士別と旭川空港や千歳空港間の送迎を行った。 施設の不良箇所を適宜修繕やランニングコース看板の設置を行うなど、適切な管理によるトレーニング環境を提供した。 地元産の食材などを差し入れし歓迎の意を伝えた。								
【主な取り組み】								
・クイーンズ駅伝(宮城県)、ニューイヤー駅伝(群馬県)などへの招致活動 ・旭川空港や千歳空港間の送迎 ・陸上競技場トラック及びフィールドを改修 ・合宿チームへの差し入れ (地元産)トマトジュース、羊肉、ヨーグルトなど								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次士別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	「合宿の聖地共創」をめざし、トレーニング環境や受入態勢の整備・充実を図るとともに積極的な招致活動を推進するなど合宿チームの受入拡大を推進し地域活性に繋げることが重要であるため							

No.22	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	生涯スポーツの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
チャレンジデーの達成率		45.0	46.0	47.0	48.0	49.0	50.0	51.0
基準値(2018年度):27.1%								
目標値(2026年度):51.0%		16.1	24.2	30.2	-	-	-	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		市民スポーツ振興事業						
【事業概要】								
市民一人ひとりの運動習慣の定着を目指し、「スポーツウィーク」を設け、運動を始めるきっかけづくりと健康への意識向上を図る。期間中は体験会やイベントなどを通じて、誰もが気軽にスポーツに触れられる機会を提供する。								
【実施状況】								
スポーツウィークとして6月13日から6月22日で開催した全23プログラムにおいて総勢1,000人の参加があった。 ※令和6年度参加者数:824人								
【主な取り組み】								
○いきいき健康センター事業(健康な体づくりに向けた運動体験会) ▽いきいき健康センター / 5プログラム・90人 ○トランポリン体験会 ▽土別トランポリン協会 / 25人 ○ウエイトリフティング体験会 ▽土別ウエイトリフティング協会 / 3人 ○サッカー体験会 ▽サフォークランド土別サッカークラブ / 4人 ○卓球体験会 ▽土別卓球協会 / 25人 ○Baseball Challenge ▽土別九十九野球少年団 / 1人 ○ふまねっと体験会 ▽土別市ふまねっとサポーターの会 / 22人 ○トレーニング指導 ▽(一財)土別市スポーツ協会 / 5プログラム・237人 ○サロンdeボッチャ ▽土別市社会福祉協議会 / 11人 ○バルシューレ体験会 ▽土別スポーツウィーク実行委員会 / 90人 ○オリンピックと歩こう!正しいウォーキング講座 ▽土別スポーツウィーク実行委員会 / 30人 ○ゴルフコンペ ▽土別同友会カントリークラブ / 72人 ○オリパラフェスティバル ▽土別スポーツウィーク実行委員会 262人 ▽ゲストオリンピック5名・デフリンピアン1名								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	令和5年度から、市民の運動を始めるきっかけづくりと健康への意識向上を図ることを目的に「スポーツウィーク」を実施しているため							

No.23	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	各種イベントの充実 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
スポーツイベントの参加者数		5,630	5,680	5,730	5,780	5,830	5,880	5,930
基準値(2018年度):5,624人/年 目標値(2026年度):5,930人/年		482	899	3,033	3,397	2,993	3,157	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		スポーツイベント開催事業						
【事業概要】								
国内外のトップアスリートが参加する質の高い各種スポーツイベントの開催や市民の参画をはじめ、市内関係団体と連携を図りながら、魅力ある大会づくりを進める。								
【実施状況】								
土別ハーフマラソン大会では、暑熱対策としてスタート時間の1時間繰上、給水とスポンジの分離設置などを行い、土別観光協会と連携し土別らしい「食」の提供を行うため、土別グルメロードを引き続き実施したことで、魅力向上を行った。								
【主な取り組み】								
・土別ハーフマラソン大会 1,629人 ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ土別大会 215人 ・ジュニアサマーjump朝日大会 49人 ・サマーjump朝日大会 106人 ・サマーコンバインド朝日大会 62人 ・「合宿の里土別」ジュニアサマーjump交流大会 22人 ・朝日ノルディックスキー大会 260人 ・オリパラフェスティバル 262人 ・トレランフェス 139人 ・全日本学生スキー選手権 85人								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☒ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	ハーフマラソン大会などスポーツイベント通じた地域の魅力発信・関係人口の増加・地域活性化につながるため							

No.24	重点プロジェクト名	合宿の聖地創造						
	担 当 部 署	生涯学習部合宿の里・スポーツ推進課						
	基 本 施 策	オリンピック・ムーブメントの推進 上段:目標値 下段:実績						
KPI項目		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
オリンピックデーラン参加者数		670	680	690	700	710	720	730
基準値(2013～18年度):平均666人 目標値(2026年度):730人/年		125	143	467	-	-	-	
■ 実施した主な取り組み								
KPIに特に関連する事業		ホストタウン推進事業						
【事業概要】								
オリパラフェスティバルでは、オリンピックとパラリンピアンを招聘し、オリンピックムーブメントの普及、啓発を図るとともに、様々なスポーツに触れる機会を提供することで、スポーツの楽しさや面白さなどの魅力を知ってもらう。また、オリンピックを講師に向かえ、トップアスリートの技術を間近で感じるなかで、よりスポーツに親しんでもらうイベントとして中学生を対象とした「オリンピック教室(オリンピック教室)」を開催する。								
【実施状況】								
○オリパラフェスティバル ▽実施日 6月14日(土) ▽実施団体／参加数 土別スポーツウィーク実行委員会 262人 ▽実施場所 土別市陸上競技場 ▽ゲストオリンピック 鈴木 靖さん(スケート)・大澤 ちほさん/川島 由起子さん(アイスホッケー)・村上 大輔さん(スノーボード)・湊 祐介さん(ノルディック複合)・松元 卓巳さん(デフサッカー)								
【主な取り組み】								
・オリパラフェスティバル 262人 ・オリンピック教室 ①市内2学年対象 ②上土別中・朝日中全学年 土別南中学校 57人 土別中学校 53人 上土別中 15人 朝日中 18人								
KPI 達成状況		☐ 達成 ☐ 概ね達成 ☐ 未達成						
■ 第2次土別市まちづくり総合計画への反映								
項目を変更して継続(戦略プロジェクトに位置付け)								
理 由	令和5年度からオリンピックムーブメントの継承事業としてオリパラフェスティバルを実施しているため							

参考資料：第2次士別市まちづくり総合計画のK G I およびK P I

未らいの士別共創										
施策10	スポーツの振興	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	主要な屋内スポーツ施設の利用者数	84,680								75,300
KPI	スポーツウィーク参加者数	610				810				1,000
KPI	オリパラフェスティバルの参加者数	262				390				500
KPI	スポーツイベントの参加者数	2,494				2,560				2,630
施策11	こども・子育て支援の充実	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	保護者による「士別市の子育てのしやすさ」の満足度	就学前: 48.1% 小学生: 56.5%								いずれも 60%
	屋内施設の整備と年間を通じた開館									
施策16	観光の振興	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	観光入込客数	520,200								540,000
KPI	道の駅来館者数	266,578				275,000				285,000
KPI	道の駅延活用件数	0				70				80
KPI	羊と雲の丘来場者数	33,613				33,000				340,000
施策19	移住定住の促進と関係人口の創出	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	移住定住促進事業を利用した移住者数	0								延10
KPI	移住ナビデスクの相談件数	80				100				100
KPI	地域おこし協力隊の定住者数	2	1	1	1	1	1	1	1	1
KPI	ふるさとワーキングホリデーの利用者数	4				延25				延50
KPI	見える化された関係人口	0				500				1,000
施策22	企業誘致の強化促進	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	新たに誘致した企業件数	0								延1
KPI	誘致企業への訪問や交渉などの件数	0	1	1	1	1	1	1	1	1
KPI	企業版ふるさと納税額(万円)	700				1,000				1,200

農業の未来共創										
施策14	農業の振興	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	新規就農（参入）者数	3								延10
KPI	新規就農者数	9				延20				延40
KPI	根菜類作付面積（てん菜・馬鈴薯）（ha）	679				750				800
KPI	中士別地区基盤整備（全体 1,097ha）	486				679				925
KPI	成雌めん羊飼養頭数（頭）	700				740				800

合宿の聖地共創										
施策21	合宿の充実	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
KGI	スポーツ合宿の延べ人数	18,827								25,000
KPI	合宿チーム数	351				430				490
KPI	士別 inn 翠月の宿泊数	11,498				11,600				11,700

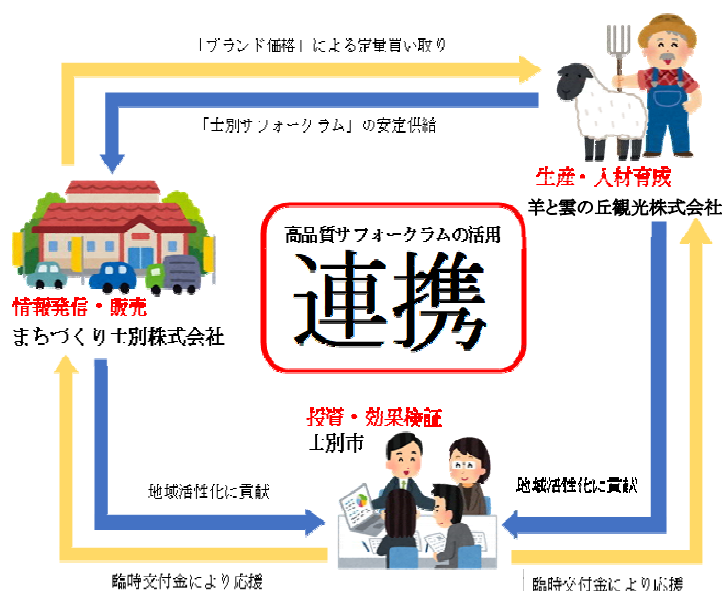
羊のまち士別 「サフォークラム」ブランディング事業

【事業目的】

令和2年度に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、国が掲げた「地域未来構想20」および「第2期士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいて、感染症にも経済危機にも強い、強靱かつ自律的な地域の社会経済構築と未来につながるまちの活性化を目的に実施。

【事業概要と数値目標】

「羊と雲の丘観光(株)」、「まちづくり士別(株)」、士別市の3者が連携し、「士別サフォークラム」を全国に広く届ける事を目指しました。



●安定生産・品質管理・技術継承の取組みを推進

羊と雲の丘観光(株)
に対する補助金交付額
2,500万円

●販売戦略・消費拡大・意識醸成の取組みを推進

まちづくり士別(株)
に対する補助金交付額
1,500万円

数値目標	基準値	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 R8年度	達成状況
成雌めん羊飼養頭数	614頭 (H30年度)	655頭	649頭	641頭	678頭	695頭	700頭	1,000頭	未達成
新規めん羊飼養者数	—	1人 (延 1人)	1人 (延 2人)	1人 (延 3人)	2人 (延 5人)	2人 (延 7人)	1人 (延 8人)	延10人	概ね達成
交流人口	334,312人 (H30年度)	290,000人	.	586,009人	560,428人	520,497人	515,454人	460,000人/年	達成
士別サフォークラム取扱店舗数	4店舗 (H30年度)	5店舗	6店舗	6店舗	6店舗	6店舗	7店舗	6店舗/年	達成
ふるさと納税額	60,676,367円 (R元年度)	73,472,026円	66,185,000円	68,620,000円	72,198,385円	120,339,900円	243,798,900円	2.5倍 (約1.5億円)	達成

地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）寄附実績

企業版ふるさと納税とは、国が認定した地方公共団体の地方創生事業に対し企業が寄付を行った場合に、最大で寄付額の 9 割を法人関係税から控除できる仕組みです。

〈寄付金の主な活用事業〉

ハーフマラソン開催事業、合宿の里推進事業、農業農村担い手支援事業、移住定住促進事業

【令和 4 年度】

寄 付 額：1,500,000 円 2 社

【令和 5 年度】

寄 付 額：6,310,000 円 9 社

【令和 6 年度】

寄 付 額：8,200,000 円 16 社

【令和 7 年度】

寄 付 額：6,700,000 円 17 社

社 名	寄付額
医療法人社団同友会	500,000 円
株式会社道北舗道	500,000 円
三協精器工業株式会社	100,000 円
株式会社北海道新聞社	非公表
株式会社ニッポン	100,000 円
新栄クリエイト株式会社	非公表
日本甜菜製糖株式会社	1,000,000 円
ニッタエアソリューションズ株式会社	100,000 円
株式会社 HDC	非公表
クリヤマジャパン株式会社	非公表
うめき工業株式会社	非公表
日本生命保険相互会社	非公表
ホクレン農業協同組合連合会	1,000,000 円

資料 4

株式会社セイコーマート	非公表
ジャパンエレベーターサービス北海道株式会社	300,000 円
有限会社大空電気	100,000 円
有限会社吉田設備工業	300,000 円

士別市振興審議会条例（平成18年3月17日条例第7号）

最終改正:令和8年5月15日条例第15号

改正内容:令和8年5月15日条例第15号〔令和8年5月15日〕

○士別市振興審議会条例

平成18年3月17日条例第7号

改正

平成24年1月27日条例第6号
平成25年5月10日条例第30号
令和8年2月17日条例第2号
令和8年5月15日条例第15号

士別市振興審議会条例

（趣旨）

第1条 この条例は、士別市振興審議会（以下「審議会」という。）の設置、組織及び運営に関する事項を定めるものとする。

（所掌事項）

第2条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について必要な調査研究及び審議を行い、その促進等について答申し、又は意見を具申するものとする。

- （1）市の振興等に係る重要施策に関すること。
- （2）士別市まちづくり基本条例（平成24年士別市条例第1号）の総合的な検討に関すること。
- （3）総合計画等の主要な各種計画に関すること。
- （4）土地利用及び開発事業等に関すること。

（組織）

第3条 審議会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長及び副会長）

第5条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により選任するものとする。

2 会長は、審議会を代表し、その会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき若しくは欠けたときは、その職務を代理する。

（会議の運営）

第6条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。ただし、会長及び副会長選任以前の会議は、市長が招集するものとする。

2 会長は、会議の議長を務める。

（専門部会）

第7条 審議会に、専門部会を置くことができる。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。

（委員の任期の特例）

2 令和8年4月1日から令和11年3月31日までの間に任命される委員の任期は、第4条の規定にかかわらず、令和11年3月31日までとする。

附 則（平成24年1月27日条例第6号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成25年5月10日条例第30号）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（令和8年2月17日条例第2号）

この条例は、令和8年4月1日から施行する。

附 則（令和8年5月15日条例第15号）

この条例は、公布の日から施行する。
